日本保健医療社会学会ニューズレター （No.113） 2019/10/22

目次

１． 学会長挨拶
２． 第 45 回大会報告
３． 第 46 回大会について
４． 総会・理事会報告
５． 園田賞報告
６． 定例研究会の報告（関東）
７． 看護・ケア研究部会報告
８． 渉外・国際交流活動の報告
９． 編集後記

１．学会長挨拶（朝倉京子）

2019 年 5 月より、樫田美雄前学会長から引き継ぎ学会長を拝命いたしました朝倉京子（東北大学）です。皆様のお力添えをいただきながら、理事の先生方とともに、より魅力ある学会を目指して運営してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新体制になって初回の理事会では、今期理事会の任期 2 年間で取り組むべき主要な課題を以下のように整理しました。第一に、理事会/研究活動委員会と大会校との合意形成および連携のあり方について検討します。この数年は研究活動委員会が大会校と協働して大会の企画運営を担ってきましたが、まだ様々な試行錯誤の最中です。今期理事会では、研究活動委員会と大会校がより効率的に質の高い意思決定と実務ができるよう、しっかりと後方支援を行っていきます。

第二に、学会誌（論集）のあり方について検討します。とりわけ、多くの査読者の先生方からご意見をいただいてきた第三査読者の位置づけを含め、より公正な査読システムのあり方について検討いたします。併せて、評議員会や総会で多くのご意見を頂きました論集の電子化の可能性について議論を開始したいと思います。

第三に、学会規約の見直しです。特に、理事改選の回数制限や任期について課題があることは、総会でも指摘されました。各会員が役員として学会運営に参画する機会を拡大すると同時に、経験豊かな会員の力を活かし、本学会をより発展させることのできる理事改選のシステムを会員の皆様と一緒に考えたいと思います。

それでは、これからの 2 年間どうぞよろしくお願いいたします。大会や定例研究会、あるいは誌上で、会員の皆様とお目にかかれますことを心より楽しみにしております。

２．第 45 回大会の報告（大会長：中村美鈴　東京慈恵会医科大学）

令和元年 5 月 18 日、19 日の 2 日間にわたり、第 45 回日本保健医療社会学会大会・30 周

年記念大会は調布市にある東京慈恵会医科大学国領キャンパスにおいて開催しました。
参加者数は、会員 202 名、非会員 80 名、名誉会員 4 名、招待者 6 名、プレス 1 名の合計 293 名で、記念大会に相応しい参加者数となりました。このような大会を運営できましたのも、研究活動委員会の田代委員長、小澤先生、林先生、伊藤先生、松繁先生はじめ、佐藤幹代事務局長、藤巻郁郎事務局長補佐、東京慈恵会医科大学成人看護学の運営事務局の皆様、当日ボランティアの教員・学生の皆様、大学の関係者の皆様、全ての方のお名前を記すことはできませんが、多くのご協力・ご支援の賜物であり、甚大なる感謝の意を表します。

今回の第 45 回学会大会・30 周年記念大会では、保健医療社会学における学際性について攻究し、参加者の皆様とともに新たな視座を見出したいと考えていました。そのため、大会テーマは、45 年間の大会の歩みと現在を踏まえ、近未来を切り拓いていくという思いから、「保健医療社会学の新たな視座」としました。30 周年という記念大会でもあり、理事会企画で、故・園田恭一先生の記念パネル展示コーナーを設置しました。

プログラムは、自分の専門性から、大会長講演のテーマを「救急医療を要する患者・家族の意思決定支援に対する新たな視座」とし、ナッジ的意思決定の必要性を新たな視座として提言しました。

特別公演では、「いのちの生成-ケアのケアを考える-」というテーマで、上智大学短期大学英文科の丹木博一教授にご講演いただきました。この講演では、「いのち」の次元にまなざしを向け、その特徴を浮き彫りにすることによって、個人主義的で生産主義的な近代の人間観の限界を見据え、21 世紀を生きるために必要な新たな人間理解を問い求め、ケアの困難から、ケアの新たな視座をそれぞれの立場からくみ取っていただけたものと思います。基調講演については、保健医療社会学を探求し続けていらっしゃる日本福祉大学の山崎喜比古教授に「保健医療社会学に魅せられて―30 年の歩みとこれから―」というテーマで、本学会の発足当時からの様相を脈々と講演いただきました。山崎先生ご自身は、基調講演ではなく、記念講演として取り組みたい旨、ご希望がありましたが、こちらの強い希望により、基調講演で依頼をしました。

また、30 周年記念シンポジウムは、研究活動委員会が中心となって企画いただきました。

本シンポジウムは、今回の目玉であり、「保健医療社会学の知の可能性：研究・教育・実践の未来」について、保健医療社会学とはなにか、その本質の意味からシンポジウムと参加者の皆様と攻究し、それぞれの立場から鍵となるものを見出せたのではないかと思っております。

一般演題は、口演 36 題、示説 11 題、RTD は 11 題と 2 日間にわたり、充実したプログラムとなりました。どの会場も、場が熱く、当事者・患者・家族に寄り添って保健医療社会学の視点から、絶え間なくディスカッションがなされており、新たな視座を見出し、明日からの現場につなげる討議だったと思います。

思い起こしますと、大会準備を始めたのは 2017 年 12 月であり、第 1 回目の打ち合わせを行いました。その後、大会終了後も含めて 2019 年 7 月の期間の間に、全 9 回の会議を開催し、組織メンバーは、45 回大会長、大会事務局（自治医科大学：２名）、大会企画運営委員（東京慈恵会医科大学医学部看護学科：９名）で運営にあたりました。

プログラムについては、研究活動委員会、学会長（樫田先生）の早期からの企画と準備のもと、メールでも連絡を行い、アドバイスをいただきながら進めてきました。

当日は、予想を上回る当日の参加者の数で、 論集特別号の配布について 100 部の準備は不足したため大会会場で急遽印刷して対応したというハプニングもありました。

夕方の情報交換会では、約 120 名の方に参加いただきました。会場は、大学キャンパス内の「ベラ」というレストランで行いました。冒頭で松藤千弥学長の素敵なご挨拶をいただきました。料理長は、もと帝国ホテルの料理人でしたので、美味しくお料理をいただきながら、懇談できました。

2 日目は本大会のプログラムが終了し、研究活動委員会委員長の挨拶をもって、閉会となりました。参加者の方々が「本当にいい学会だった……」と満足して帰られる姿に企画員一同、胸が熱くなりました。

第 45 回日本保健医療社会学会・30 周年記念大会が、これからの保健医療社会学の未来を切り開く第一歩になれれば本望でございます。皆様の益々のご健勝と本学会のご発展を心より祈念しています。

３．第 46 回大会について（研究活動委員会）

第 46 回日本保健医療社会学会大会は、2020 年 5 月 16 日（土）・5 月 17 日（日）に、吹田市の大阪大学にて開催されます。大会長は山中浩司先生、大会事務局長は野島那津子先生です。大会テーマ等の詳細については、次号以降のニューズレターにてお知らせいたします。

４．総会・理事会報告（松繁理事）

第 45 回日本保健医療社会学会大会の 2 日目の 2019 年 5 月 19 日（日）に総会がおこなわれ、総会議案書にもとづいて、2019 年度の学会運営方針、2020 年・2021 年の大会開催校に関する報告、次期役員の紹介が行われ、承認されました。理事会は 2019 年の 5 月 17 日（金）および 8 月 7 日（水）に開催されました。詳細は以下のとおりです。

日時： 2019 年 5 月 17 日（金）17：30～19：30
会場： 東京慈恵会医科大学　看護学科棟 5 階　会議室 1
出席者： 樫田会長、松繁理事※、朝倉理事※、三井理事、小澤理事、田代理事、伊藤理事、林理事、西村理事、天田理事※※、戸ヶ里理事※※、蘭理事※※、事務局 平野（記 国際文献社）
欠席者： 石川理事、清水理事※※、前田理事※※、中山理事※※、本郷理事※※、武藤理事※※
※は 2017-18 期・2019-20 期理事、※※は 2019-20 期理事、無印は 2017-18 期理事を示す。

1. 役員選挙結果・監査結果の報告（松繁理事）
   松繁理事より次期役員選挙結果の報告があった。監査については 4 月に 2018 年度監査が行われたことが伝えられた。
2. 第 45 回大会および総会についての確認（樫田会長）
   樫田会長より第 45 回大会の準備状況に関して報告があった。
3. 大会時評議員会の議題について（樫田会長）
   樫田会長より評議員会における議事案が伝えられた。
4. 規約改正の総会での提案について（樫田会長）
   樫田会長より理事の途中退任・就任があることから役員歴のカウントの仕方について学会規約及び名誉会員制度の改定をする必要があることが伝えられた。
5. 30 周年記念関連事業について－特設ブースほか－の総括（松繁理事）
   松繁総務理事より特設ブースに園田賞受賞者一覧、園田元前会長についてのポスターを貼ること、30 周年記念座談会の内容、アンケート結果を配布するとの報告があった。
6. 第 46 回大会についての確認（樫田会長）

樫田会長より第 46 回大会は大阪大学の山中浩司会員に大会長を依頼し、承諾が得られたことが伝えられた。

7. 日本学術振興会「育志賞」候補の推薦依頼への対応について（樫田会長）

以前の理事会で園田賞受賞者が院生であった場合は育志賞に推薦しても良いと決定したことから、今回の受賞者が院生であるか確認したところ、3 月に院生でなくなった為、今回は見送ることとなった。

8. 関連諸学会（「福祉社会学会」等）との連携協力関係について（樫田会長）

樫田会長より第 45 回大会の 30 周年記念シンポジウムに福祉社会学会長の藤村正之氏を招くこと、福祉社会学会の大会時テーマセッションに日本保健医療社会学会会員を派遣することの報告があった。

9. 18 年度決算及び 2019 年度予算案について（松繁理事）

松繁総務理事より 2018 年度決算書と 2019 年度予算案について報告があった。

10. 新旧担当理事間の引継ぎについて確認（各理事）

朝倉理事より編集委員会が 5 月 18 日の新旧合同編集委員会にて引き継ぐことが報告された。渉外・国際交流委員会は石川理事から武藤理事へ引継ぎをすること、広報に関しては西村理事から清水理事へ引継ぎをしたことが伝えられた。

11. 編集委員会報告（朝倉理事）

朝倉理事より献本が多く届いていることから書評を進めていることが伝えられた。第 45 回大会のメインシンポジウムは原稿化することが決定しており、編集委員会企画シンポジウムは原稿化を交渉中であるとの報告があった。

12. 定例研究会の報告（関西）（林理事）

林理事より定例研究会の参加人数が少ないことから、研究会の内容、周知方法等を工夫する必要があることが伝えられた。

13. 入退会者の承認（松繁理事）

松繁総務理事より新入会者 10 名の承認依頼があり、承認された。また、退会者 3 名の報告があった。

14. 学会サイト「保健医療社会学を学びたい人へ」情報提供について（松繁理事）

松繁理事より、保健医療社会学を学べる場に関するリストをホームページに作成することが伝えられた。

15. 看護・ケア研究部会会計報告 （三井理事）

三井理事より部会員が増えていること、支出があまり多くないことから繰越額が貯まりつつあるため、繰越金費用の有効活用を検討していることが伝えられた。

日時： 2019 年 8 月 7 日（水）14：00～17：00

会場： (株)国際文献社 アカデミーセンター 4 階会議室

出席者： 朝倉会長、松繁理事、蘭理事、本郷理事、前田理事、戸ヶ里理事、佐藤大会事務局長（第 45 回）、山中大会長（第 46 回）、野島大会事務局長（第 46 回）、事務局　平野（記　国際文献社）

欠席者： 中山理事、天田理事、武藤理事、清水理事

1. 今後の学会運営の重要議題・理事会審議の進め方について（朝倉会長・松繁理事）

朝倉会長より今期理事会にて検討すべき議題について説明があり承認された。

2. 第 45 回大会会計について（朝倉会長）

朝倉会長より、第 45 回大会会計の決算書の作成が終わっていない為、次回の提出となることの報告があった。

3. 第 45 回大会報告（第 45 回大会 佐藤幹代事務局長）

佐藤大会事務局長より第 45 回大会の報告があった。大会参加者は 282 名であり、予想を上回る参加者数であった。

4. 第 46 回大会の準備状況の報告（第 4 6 回大会 山中大会長・野島事務局長）

第 46 回大会について、山中大会長と野島事務局長から報告があった。次回の理事会開催までに、大会企画や予算を研究活動委員会メーリングリストで事前に審議することとした。

5. 編集委員会報告　（戸ヶ里理事）

戸ヶ里理事より、現行の編集委員会の規定・細則等に課題があり、編集委員会がより柔軟に対応できるような既定の改定等を検討しているとの報告があった。

6. 定例研究会の報告（関東）（前田理事）

前田理事より第 1 回関東定例研究会を 11 月に開催予定であるとの報告があった。

7. 定例研究会の報告（関西）（本郷理事）

本郷理事より第 1 回関西定例研究会は 9 月に開催することが報告された。場所は確定次第、学会ホームページやメール配信にて広報することとした。

8. 看護・ケア研究部会報告（清水理事）

7 月の定例研究会が中止となったこと、11 月は公開企画を開催する予定であることが伝えられた。

9. 渉外・国際交流活動報告（武藤理事）

RC15 のニューズレター原稿を朝倉会長が執筆し、寄稿したことが伝えられた。

10. ニューズレターのアーカイブ化について（松繁理事）

松繁理事よりニューズレターのバックナンバーを米林名誉会員よりご提供いただいたことが報告された。今後、データアーカイブ化を進めていき、学会ウェブサイトへアップすること等が確認された。

11. ニューズレター113 号の発行予定（清水理事）

第 1 回理事会と第 2 回理事会の内容をまとめ、次号を発行することが確認された。

12. 入退会者の承認について（松繁理事）

松繁理事より新入会者 10 名の承認依頼があり、承認された。入会申込について今後はオンライン入会を導入し、推薦会員の自署・押印は不要とすることとした。

13. その他

学会ウェブサイト上の、保健医療社会学を学びたい人へ向けた情報提供について、現在、清水広報担当理事が検討していることが伝えられた。

５．園田賞報告（園田賞選考委員会）

若手研究者の研究奨励を目的に 2006 年度に設置された日本保健医療社会学会奨励賞（2013 年度より「園田賞」）の 2018 年度受賞者は、選考委員会による審査結果の報告を踏まえ、理事会で審議の上、以下の通り決定されました。

受賞者：李怡然

受賞作：ゲノム医療時代における「知らないでいる権利」（研究ノート：『保健医療社会学論集』第 29 巻 1 号、pp. 72 -82、2018 年　共著者：武藤香織）

2018 年度園田賞は、この年度に発行された本学会機関誌『保健医療社会学論集』（第 29 巻）に掲載された若手研究者による論文（総説、原著、研究ノート）を対象にして選考されました。

６．定例研究会の報告（関東）　（前田理事）

2019 年度第 1 回関東定例研究会を下記の通り開催します。ヒトのゲノムの解読が開始されてから約 30 年がたとうとしている現在、日本においては、必ずしも遺伝・ゲノム医療をめぐる社会的議論が十分に尽くされているとはいえません。長くこの分野の第一人者でいらした武藤香織先生に、これまでの 30 年間を俯瞰した視点からご講演いただき、参加者との議論を共有する機会としたいと考えています。ぜひ奮ってご参加ください。

日　時：2019 年 11 月 30 日（土）　14:00～16:30（予定）

場　所：立教大学池袋キャンパス 10 号館 X102 教室

https://www.rikkyo.ac.jp/access/ikebukuro/

講演者：武藤香織先生（東京大学医科学研究所）

テーマ：人の遺伝・ゲノムの社会学～日本の 30 年間を振り返る

７．看護・ケア研究部会報告（清水理事）

1）公開企画のご案内

公開企画として、秋田大学から板倉有紀さんをお招きし、お話を伺います。板倉さんは、最近単著『災害・支援・ケアの社会学――地域保健とジェンダーの視点から』（生活書院、2018）を出され、災害時の保健師の活躍に注目しながら、ジェンダーの視点から災害時の被災者の状況や支援の課題について論じてこられた社会学研究者です。看護やケアの視点からも、社会学の視点からも学びの多いお話を伺えることと思います。どなたでも参加できます。

日　時：2019 年 11 月 16 日（土）13:30～16:30

場　所：東京八重洲ホール　301 会議室　　http://yaesuhall.co.jp/accessmap/

報告者：板倉有紀さん（秋田大学）

タイトル：パーソンセンタードの支援について：災害から始める社会学の試み

概　要：災害時は一人一人の個別性に配慮することの困難がうかびあがる。ジェンダーや「災害時要援護者」への支援が一例だ。他人を社会的カテゴリーにわけて理解するという実践が問われる。この課題が社会学理論と教育にもつ含意を議論する。

多くの方のご来場をお待ちしております。なお、当日「高輪ゲートウェイ駅」開業に向け山手線・京浜東北線の切り替え工事が予定されております。交通機関をご確認ください。

2）第 1 回定例研究会報告

日　時：2019 年 9 月 14 日（土）14:00～17:00

場　所：東京医療保健大学　船橋キャンパス　225 教室

報告者①：三枝七都子さん（東京大学新領域創成科学研究科）

タイトル：「民間情報紙 Bricolage から見る専門職たちの連携――介護保険制定以前に見られた地域における活動に着目して」

概　要：

介護保険法制定以前の高齢者介護を巡るケア従事者たちの協働の変遷について、民間情報紙 Bricolage（以下、ブリコラージュ）を対象とし分析した内容を発表した。ブリコラージュとは特別養護老人ホームで勤務し理学療法士となった三好春樹が設立した「生活とリハビリテーション研究所」という事務所が 1989 年に創刊した、介護にまつわる情報紙（会員制の講読紙）である。現在も年 6 回発刊し、介護職を中心に多く読まれている。

発表では、ブリコラージュ創刊当時の 80 年代から、90 年代、2000 年代までの区間で、雑誌に登場するアクターの違いや、雑誌で取り上げられている話題などから、当時のケア従事者たちの協働の様子（の一部を）を報告し、意見・助言をいただいた。

研究会を経て、ブリコラージュは介護をめぐった一つの社会運動の記録として捉えることができるという点と、当時ブリコラージュを介して培われてきた医療・保健・介護のケア従事者たちの協働のあり方が、現在必要性が説かれ模索されている医療・保健・介護の専門職同士の連携・協働の視点とは異なるものを持ち得るという点を改めて認識することができた。このような研究会で頂いた視点を念頭に、今後更なる分析を進め、論文として仕上げ

ていけるよう努めたい。

報告者②：三井さよ（法政大学）

タイトル：「「触法」と「人格」について」

概　要：

いわゆる「触法障害者」が問題化されつつある現在、知的障害・発達障害の人たちの自立生活支援や地域生活支援の場において、「触法」や「人格」がいつどのように問題として浮かび上がるのか、周囲の人たちとコミュニケーションはなされているがズレていること、相互理解はあるのだがズレていることなどに基づいて考察した。フロアとの議論では、近年発達しつつある「司法福祉」という領域について、その可能性と限界、看護とのかかわりなどについて議論になり、制度化の限界とともに、どのような制度化がありうるのかという視点も不可欠であることを再認識させられ、報告者にも得るものが大きかった。

８．渉外・国際交流活動の報告（武藤理事）

国際交流委員会では、国際学会や海外からの研究者招聘に関する情報提供を行っています。今期より委員長を拝命し、石川ひろの委員、金子雅彦委員、孫 大輔委員、竹中 健委員、平野裕子委員、細田満和子委員とともに、活動を進めて参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

- International Sociological Association（ISA）の RC15 Sociology of Health からニューズレターの 2019 年 7 月号が発行されました。朝倉京子学会長が第 45 回大会について寄稿されています。ぜひご覧下さい。
  https://www.isa-sociology.org/frontend/web/uploads/files/rc15newsletter_july_2019.pdf
- British Sociological Association（BSA）の Medical Sociology Group Annual Conference が 9 月 11 日から 13 日までヨーク大学で開催されました。報告のテーマはライフコース、メンタルヘルス、ヘルスケア提供や政策、倫理、専門職、ジェンダー、不平等、方法論、病経験、卒前医学教育と社会学などでした。口頭発表とポスター発表を合わせて、日本人研究者の報告が金子委員を含めて 9 件、日本の大学に所属する外国人研究者の報告が 2 件ありました。次回の大会は 2020 年 9 月 9 日～11 日に、ランカスター大学で開催されます。演題発表申込の締切は、2020 年 4 月 28 日です。
  https://www.britsoc.co.uk/groups/medical-sociology-groups/medical-sociology-medsoc-study-group/
- Forum with international participation Sociology of Health: Focusing on Patient-orientated Approach が 2019 年 11 月 12 日にモスクワの Expocentre にて開催されます。ISA RC15(Sociology of Health) 会長の細田委員がゲストスピーカーとして招聘されています。以下のサイトから参加登録が可能です。
  https://socforum.niioz.ru/en/?fbclid=IwAR368jYVWZE8--

RHAKtKQfLJN5SRZebZ_WTxB9Bno-Eef82eOWi4U5gQHbA

- The biennial Asian Studies Association of Australia (ASAA) conference が、2020 年 7 月 6 日～9 日に、メルボルンの University of Melbourne にて開催されます。健康社会学や公衆衛生領域のセッションもあります。演題発表申込の締切は、2019 年 11 月 1 日です。
  https://www.asaaconference.com.au/home/submission
- International Sociological Association ：IV ISA Forum of Sociology が、2020 年 7 月 14 ～18 日に、ポルト・アレグレ（ブラジル）の Events Center PUCRS にて開催されます。RC15 Sociology of Health では計 15 セッションが予定されております。演題発表申込は終了しました。
  https://isaconf.confex.com/isaconf/forum2020/webprogrampreliminary/Symposium581.html
- Asia Pacific Sociological Association (APSA) の大会が、2020 年秋に、ケソン（フィリピン）の Ateneo de Manila University にて開催の予定です。また、APSA の前日に、The third Asian Conference on Health and Medical Sociology を開催することが企画されています。詳細が決まりましたら、お知らせいたします。

９．編集後記（清水理事）

・ ニューズレターvol.113 は、5 月の第 45 回大会やその後の研究会活動の報告、理事会等の報告を中心に掲載いたしました。今回掲載できなかった内容については、次回の掲載を予定しています。

・ 日本保健医療社会学会ニューズレターは第 92 号からは PDF ファイルのメールマガジン形式で配信しています。また学会ホームページでも公開しています。メールマガジンの文字が読めない場合などの受信に問題がある場合は、恐れ入りますが、日本保健医療社会学会事務局まで御連絡ください。
https://square.umin.ac.jp/medsocio/

発行：日本保健医療社会学会　　編集：広報担当（清水準一）
学会事務局：　東京都新宿区山吹町 358-5　アカデミーセンター
jshms-office@bunken.co.jp　　TEL：03-6824-9375